

平成 29 年度 認知症看護対応力向上研修【北陸】報告

1. 開催日・会場

平成 29 年 9 月 23 日（土）・平成 29 年 9 月 24 日（日）
金沢医科大学病院 中央棟 4 階大会議室



2. 参加者数：38 名（会員 9 名、非会員 29 名）

3. プログラム：

研修会場となった病院中央棟（写真は同病院広報誌より引用）

9月23日(土)		6h	
時間	テーマ	時間数	講師
9:00	会場開場		全員
9:30～	受付開始		
9:45～9:50	会場オリエンテーション		
9:50～10:00	開会挨拶 スケジュール説明、ファシリテーター・講師紹介	10分	竹内 登美子(富山県立大学)
10:00～10:50	1. 認知症患者に特有な看護上の課題と看護の基本	50分	寺島 喜代子(福井県立大学看護福祉学部)
10:50～11:00	休憩	10分	
11:00～12:20	2. 認知症の病態と治療	80分	入谷 敦(医師、金沢医科大学医学部 高齢医学科)
12:20～13:10	昼休憩	50分	
13:10～14:10	3. せん妄の予防と対応方法	60分	四谷 淳子(福井大学医学部看護学科)
14:10～14:20	休憩	10分	
14:20～15:10	4. 認知症患者の環境調整	50分	林 稚佳子(金城大学看護学部)
15:10～16:10	5. 認知症患者のコミュニケーションスキル (DVD視聴と演習含む)	60分	平松 知子(金沢医科大学看護学部)・全ファシリテータ
16:10～16:20	休憩	10分	
16:20～17:10	6. 家族への支援	50分	加藤 真由美(金沢大学医薬保健研究域)
	明日のアナウンス、片付け		竹内 登美子(富山県立大学)

初日終了後、オプション・ツアー 金沢医科大学病院 認知症センター(新設)の見学

9月24日(日)		6h	
時間	テーマ	時間数	講師
9:15～	受付開始		
9:25～9:30	オリエンテーション		北村 隆子(敦賀市立看護大学)
9:30～11:20	7. 入院中の認知症患者に必要なアセスメントと援助技術 演習含む	110分	森垣 こずえ(金沢医科大学病院老人看護CNS)・全ファシリテータ
11:20～11:30	休憩	10分	
11:30～12:30	8. 退院支援と地域包括ケア	60分	関 利志子(公立能登総合病院老人看護CNS)
12:30～13:20	昼休憩	50分	
13:20～15:10	9. 認知症に特有な倫理的課題と意思決定支援① 10. 認知症に特有な倫理的課題と意思決定支援② 演習含む	110分	直井 千津子(金沢医科大学病院老人看護CNS)・全ファシリテータ
15:10～15:20	休憩	10分	
15:20～16:20	11. 認知症ケアとチームアプローチ 演習含む	60分	川島 和代(石川県立看護大学)・全ファシリテータ
16:20～16:35	まとめ	15分	北村 隆子(敦賀市立看護大学)
16:35～16:50	アンケート記入、修了証授与 閉会の辞	15分	北村 隆子(敦賀市立看護大学)・全ファシリテータ
16:50～17:30	片付け	40分	全員

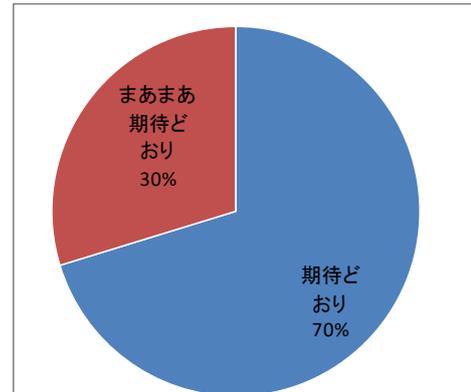
4. 運営体制：全体調整 2 名、講師 10 名、ファシリテーター 8 名、運営補助アルバイト 1 名 総数 21 名

◆研修全体について◆

回収率 37/38名 (97.4%)

1. 研修の内容は期待通りだったか

項目	回答数	割合
期待どおり	26	70%
まあまあ期待どおり	11	30%
あまり期待どおりでない	0	0%
期待どおりでない	0	0%
無回答	0	0%
合計	37	100%

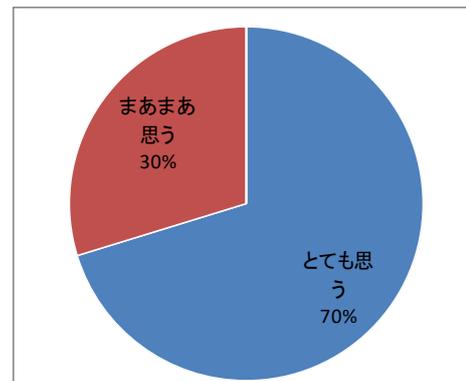


(その理由)

- ・改めて学べた、再確認の機会になった、理解が深まった (6)
- ・急性期以外の具体的介入方法をもう少し知りたかった
- ・認知症に関して具体的にその部署での研修方法が知りたかった
- ・ケア加算についても知ることができた
- ・認知症患者の看護の現在についての確認ができる内容であった
- ・グループで話し合うことにより、各病院施設の現状が把握できた
- ・演習が良かった
- ・事例が多くイメージがつきやすかった
- ・講義内容も理解しやすく、講師の経験知、実践知が盛り込まれて良かった
- ・実践の場にあった内容、すぐ活用できる内容であった
- ・病院なので患者への対応を深めたかった
- ・2日間の短い時間内に要点が簡潔にあって分かりやすかった
- ・とても勉強になり、現場でも実践していきたい
- ・今日来てよかった
- ・各看護大学の先生方の講義を受けられてとても良かった
- ・認知症看護に興味がとてもあったから期待以上だった

2. 研修を受けて「自分」の看護の質改善・向上に活かしていきたいか

項目	回答数	割合
とても思う	26	70%
まあまあ思う	11	30%
あまり思わない	0	0%
思わない	0	0%
無回答	0	0%
合計	37	100%



(その理由)

- ・今後の看護に活かしていきたい、活かせる事がある (6)
- ・力を入れず、まず継続
- ・認知症の方の意向を十分に把握できていない
- ・研修を踏まえて看護を見直して、質の向上につなげたい
- ・今までの看護で認知症についての知識が低く、適切なケアができていないと思ったから
- ・学んだことを実践にいかしていきたい。初心に戻って取り組みたい
- ・しかたないという思い(甘え)があったが、改善していく努力をすれば達成できると感じたから
- ・患者へのアセスメントの知識が広がった
- ・難しい部分もあると思うこともある
- ・自身の対応次第では違う結果になったかもしれないと思う事例があるから
- ・アセスメントがしっかりできていないので、研修で学んだことを活かしていきたい
- ・今日学んだことを少しずつ病院にフィードバックしてしていけたらと思う
- ・他の看護師、介護職に伝えたい
- ・これからの時代に認知症看護人としての理解を深めたい
- ・救急病棟であり、認知症の方も増えている。自身の看護の振り返りにしたい
- ・一人の生活者である事、改めて思わされた

北陸地区で開催の機会を得て（まとめ）

1. 「認知症看護対応力向上研修」の北陸地区における開催意義

「認知症看護対応力向上研修」を北陸地区として引き受け実施できたことは、受講者にとっての学びの機会のみならず、北陸 3 県の看護系大学・学部の老年看護学担当者と老人看護専門看護師等との出会いと協働体験の機会となりました。このような機会を得られたことに感謝申し上げます。

2. 参加者の特徴

参加者 38 名のうちアンケートが提出された 37 名のうち、「自主的に参加」を決めている方が 25 名（68%）を占め、主体的な参加者の割合が多くみられました。参加者の年代・職位をみると、40 歳台の参加者が 19 名（51%）、職位も病棟主任以上が 15 名（41%）を占め、現場の認知症看護を向上させていける可能性のあるベテランが多くを占めていました。本研修会は北陸 3 県の認知症高齢者のケアの質の問いなおしと今後の発展への契機の 1 つとなるのではないかと考えます。

3. 研修会の満足度等

参加者からの満足度については、アンケートの結果より「期待通り」、「まあまあ期待通り」との回答が大半（100%）を占めました。「自分の看護の質の向上につながったか」や「職場で生かしたいと考えるか」の設問においても、大半（100%）が肯定的に回答されています。この結果は、運営担当メンバーの総力と考えます。

研修会場として金沢医科大学病院中央棟研修室（新設・無料）を借用でき、整った環境の中で集中して研修に取り組みました。同施設のオプションツアー「認知症センター」見学に参加者全員の希望があり、急性期病院が取り組む認知症予防の理解にもつながったと思われまます。

4. 今回の研修会からの課題

グループワークに関しては時間が短い、もう少しゆっくり議論し発表などで共有したいという意見が参加者・ファシリテーター双方から出ておりました。演習の進め方は今後の課題といえます。

5. 次年度以降の開催と老年看護学会の課題について

今回の参加者数は必ずしも多かったとはいえませんが、参加者からは肯定的な意見と継続開催の要望が出されていました。もし、次年度も北陸地区で継続開催できれば富山か福井で開催したいと思います。

今回の協働体制で実施できるよう連携を図っていただければうれしく思います。

急性期医療現場には課題が山積しています、参加者のアンケートの自由記載からは現場の認知症ケアを変えられないという意見も見受けられます。老年看護学の研究者や老人看護専門看護師もこの現場の声を今後の研究や実践の課題として取り組むことが重要ではないかと思われました。